

初修外国語について

《はじめに》

英語以外の新たな外国語を学ぶということは、大学教育の大きな特徴のひとつで、大学生のシンボルであるといってもよいでしょう。熊本大学では、既修外国語である英語のほかに、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の四つを必修の初修外国語として開講しています。文学部・教育学部・法学部の皆さんは、これら四つのうちから一つを選択して英語とともに必修科目として履修します。しかし、大半の皆さんにとって、英語以外の外国語はおそらく未知のものであり、期待とともに不安を抱きつつ選択に迷う人も少なくないと思われます。そこで初修外国語各科目でそれぞれ紹介文を用意しましたので、選択の参考としてください。

いわゆる「世界共通語」という性格をもつに至った英語の重要性については多くを語る必要はありません。しかし、英語や英語文化圏にのみ目を奪われていたのでは、世界に視野を広げて真の国際理解を増進していく上で大きな偏りが生じることになり、これは大学生にふさわしいことではないでしょう。外国語を学ぶということは世界への窓を自ら開くということです。この窓を可能なかぎり多く広く開くことによって、バランスのとれた国際感覚を身につけるとともに、自分自身を見つめ直すことも出来るようになるのです。

新たに初修外国語を学習することは、単にその外国語に関する知識・技能を習得し、その言語文化圏についての理解をつけ加えるにとどまるものではありません。それは、母語である日本語および既修外国語である英語の理解にも反映し、日本および英語文化圏についての理解をも深めるものです。そして、どの言語もそれぞれの独自性とともに関通性を備えた対等・平等なものであること、したがって、その背後にある文化もそれを支えている民族や国も対等・平等なものであることが実感されることでしょう。

真の国際理解に向けての第一歩を踏み出すためにも、また、大学生にふさわしい真の教養を身につけた自立した人間として自らを確立していくためにも、皆さんが積極的に初修外国語の学習に取り組まれるよう期待します。

なお、自由選択外国語として、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ロシア語、スペイン語、ヘブライ語、イタリア語、ラテン語、日本語（留学生のみ）が、開講されています。必修外国語だけでは不十分な面を補うためにも、各自の多様な目標にチャレンジするためにも、さらに新しい外国語を学ぶためにも、積極的に履修してください。

《ドイツ語》

世界の多様さに目をみはること、それが外国語学習の一番に楽しいことではないでしょうか。私たちはドイツ語の学習を通して、その楽しさを皆さんと分かち合いたいと思います。

ドイツ語は英語と同じ西ゲルマン語族に属し、英語とは姉妹関係にあるため、すでに英語を学んだみなさんにとって最も親しみやすい言語の一つです。

“Good morning!”は“Guten Morgen!”(グーテン・モルゲン)と言いますし、“What is that?”は“Was ist das?”(ヴァス・イスト・ダス)です。

さらには、“house”→“Haus”(ハウス)、“boat”→“Boot”(ボート)、“name”→“Name”(ナーメ)、“butter”→“Butter”(ブター)、などの例にもびっくりしませんか？英語学習でさんざん苦しめられた「綴りと発音の不整合」が、ドイツ語では断然少ないことがお分かり頂けると思います。実際の発声・聞き取りに際しても、一般の日本人にとっては英語よりもドイツ語のほうが容易である、と強調しておきましょう。

「でも、ドイツ語って文法がめちゃくちゃ難しい、って先輩が言ってた！」などというひともいるかも知れませんが、それは全くの誤解なのです。この場で詳述する余裕がないのが残念ですが、中級以上に進んでいくと、ドイツ語文法のシステムティックで明快な構図に、「高校で学習したあの雑多で捉えどころのない英文法は一体何だったのだ？」と愕然とするものです。語順の感覚(自由度)が日本語と似ている、ということも習得を容易にしていますし、さらには基本語の組み合わせによる語彙の構成原理も魅力で、つまり英語のような膨大な語彙に圧倒されることはないのです。

(たとえば英語“refrigerator”の語源が一目で分かるのは、英米人でもよほどのインテリです。ドイツ語なら“Kühlschrank”「冷たい Kühl+戸だな Schrank」という、小さな子供でも分かる語彙の組み合わせで、「冷蔵庫」です。)

ドイツ語の文法システムは、実は英語もかつては類似のものを有していました。ドイツ語の文法を学ぶことにより、ゲルマン語としての英語の古層が見えるようになって英語の底力がつく、そういう効用も見逃せません。つまりドイツ語を知って英語が良く分かるようになった、と多くのひとが経験しているのです。

ドイツ語を母語として話す人々は、ドイツをはじめ、オーストリア・スイスなどを含め約1億人です。これはヨーロッパで英語を母語とする人口(約5千7百万人)よりはるかに多い数になります。

明治の開国期から現代にいたるまで、科学技術・医療・環境政策から、文学・演劇・映画・芸術・建築・哲学・心理学・音楽そしてスポーツなどあらゆる分野で、ドイツ語圏は絶えず日本に刺激を与え、魅了してきました。なかでもドイツは、EU(欧州連合)の核として、またヨーロッパの経済大国として、これからも日本にとって親密な関係が欠かせない国です。グローバリズムが今後ますます進んでいくであろう現代の世界にあって、英語による文化支配(?)にしっかり対峙していく、そういう観点でのドイツ語学習も極めて有意義であります。

インターネットのおかげで、実用的なドイツ語を身近に使える機会は格段に増えていきます。ドイツ語圏で就職、という熊本大学の卒業生も必ずしもまれではなくなりました。なにもそんな中級以上の話をしなくとも、海外旅行程度のドイツ語会話なら、大学1年間の学習で、相当なものを身に付けることが可能です。ドイツは親日国でもあります。たとえカタコトでも、「日本人がドイツ語を話している」ということだけで、現地での喜ばれようといったらありません。

ドイツ語は楽しい！そして役に立ちます。みなさんがこのドイツ語の世界を自由に羽ばたく人となることを、私たちは願っています。

《フランス語》

Bonjour! (ボンジュール≡こんにちは) みなさんはフランスにどのようなイメージを持っていますか？ フランスといえば、「ファッション」？ そうですね、毎年パリ・コレが開催され、シャネルやルイ・ヴィトンなどの高級ブランドの本拠地がある国です。フランスといえば、「フランス料理」「パティシエ」？ そうですね、フランスはグルメを堪能できる国で、伝統的な高級料理だけではなく多様な地方料理も楽しめます。お菓子職人をさすフランス語「パティシエ」はもはや外来語として日本語に定着しています。このようにフランスは身近な存在なのですが、その言語の習得となるとまだまだハードルが高いというイメージがあります。

しかし、フランス語の文法体系はほとんど英語と同じなので、英語を学習したことはフランス語の理解の大きな助けになります。また、フランス語の母体はラテン語であり、イタリア語、スペイン語などはその姉妹語となり、フランス語をマスターすれば、それらの言語をかなり楽に理解することができます。

欧州共通通貨ユーロに象徴されるように、ヨーロッパは欧州連合として、政治的・文化的・経済的にひとつになろうとしています。さらに、世界のフランス語人口は、約1億1千万といわれており、フランスの人口が約6千万ですから、残りの約半数はフランス以外の国々でフランス語を使用していることになります。ベルギーとスイスの一部、カナダのケベック州、多くのアフリカ諸国と南太平洋の一部などがそれにあたり、これらの地域を旅行、また研究しようとする際はフランス語が必要になってきます。また、それらフランス語圏以外でも、世界各地の高等教育機関でフランス語は教養語として広く教えられています。

フランスは長い伝統を誇る国であり、文化のさまざまな分野において国際的な名声を博しています。文学、哲学、歴史、美術、音楽、映画といった分野でフランスは重要な著作、作品を生み出しており、それらの学問、芸術をフランス語で理解することが重要であることはいうまでもありません。(特に文学部の学生で、学部4年間を通して欧米言語文化あるいはヨーロッパについての学を深めたいと思う人は、フランス語かドイツ語を選択してください。必修の初修外国語と自由選択外国語を区別して考えてください。)

また、ヨーロッパの中心的な国家としての歴史から、フランス語は現在も国連をはじめとする国際機関で公用語とされており、政治、法律を国際的な視野で勉強しようとするならフランス語の知識は不可欠です。また、自然科学においても、数学、物理学などの理論的な学問から、超特急T.G.V.や航空機、ロケットなどの機械工学、魅力的な建造物を生んだ土木や建築、生命科学までの幅広い分野でフランスは世界的な業績を上げています。

フランス語を学ぶきっかけはさまざまですが、世界におけるフランス語の重要性を認識しているためという理由からだけではなく、未知の言語の世界に飛び込み、新しい世界をみてみたいという好奇心からフランス語を選択する学生も多いようです。フランス語の学習環境は、参考書・DVD等資料が豊富であり、また実用フランス語検定試験受験のサポートも行っており大変充実しています。大学入学後にフランス語を勉強し始めて、在学中に仏検3級や準2級を取得する学生が毎年います。

大学生となった皆さんがフランス語を学び、これからますます国際化する時代にあって

大いに活躍されることを願っています。

では、新学期にフランス語の教室でお会いしましょう！

《中国語》

太古以来、数千年といわれる歴史の変遷を経て、現在の中国の全人口の90%以上を占める漢民族の言語として形成されてきたのが、中国語（漢語）です。世界にひろがる華僑・華人も含めると、およそ十数億人の人々がこの中国語を使用しています。これだけ多くの人々が使う言語に地域差があるのではないかと、という心配もあるかもしれませんが、私たちが大学で学ぶ中国語は「普通話」と呼ばれる共通語で、教育現場・報道などで使われ、中国（大陸）や台湾などのほとんどの中国語圏で通用するものです。

さて、日本と中国や東アジア地域との関係には、文献的に確認できるものに限っても、二千年以上の歴史があります。現在我々が使っている漢字はその過程で中国から移入されたものであり、ひらがなやカタカナも漢字をもとにして作られたものです。したがって、中国語を学習することは、単に中国や中国文化を理解するのに役立つばかりでなく、あらためて日本を理解するのにも有意義です。

そうはいつても現代の中国語とみなさんが高校までに学習した漢文との間には、文の構造などに共通点も見受けられますが、語彙や漢字の字形などに多くの相違点があり、発音に至ってはほとんど異なると言ってもよいでしょう。しかし、日常的に漢字を使っていない国の人々に比べて、漢字を使う日本人が中国語の学習上かなり有利なことも確かです。

すでにGDP世界第二位となった中国の国際的役割は以前にもまして増大しており、日本と中国との政治、経済、文化、教育などのあらゆる分野での交流も急速に発展しています。また、台湾についても近年往来が拡大し、ビジネスや文化面での交流が盛んになってきています。今後は様々な曲折はあるにしても、大局的には、かつての「近くて遠い国」が「近くて近い国」になり、日本の将来を考えるにあたり、あらゆる面で中国語圏の社会や文化に対する理解が必要になってくるでしょう。

中国語の学習環境については、現在は教科書・辞書・参考書・関連雑誌・DVDなどの教材に加えてオンラインでの学習ツールなどもたいへん充実しており、また、中国人留学生との交流などの機会も増えています。各種検定試験もあり、努力しさえすれば、必ずや成果が期待できます。

欧米の言語とは違ったアジアの言語の一つとして中国語を学習し、日本と世界に対する認識を、より広く深いものにしてほしいと思います。

《コリア語》

안녕하세요? アンニョンハセヨ コリア語は朝鮮半島全域で話されるほか、在外の話者も多く、総話者人口7500万以上を抱える世界の大言語の一つです。韓国、北朝鮮、及び中国の朝鮮族自治州・自治区で公用語として使われています。日本にとっては最も近い、隣の言語です。コリア語を表記するのに使われるハングルという文字は1443年に時の王であった世宗が作ったことが分かっており、世界でも稀有な存在感を誇っています。

コリア語の魅力はまず、その地理的な条件から、最も簡単に生の言葉に接することができるということにあります。学習経験がなくとも、テレビや映画ですでにコリア語に触れたことのある人が多いことでしょう。熊本を含む九州各地からの直行便、あるいは福岡、下関からの船便を使って、あっという間にハングルだらけの世界に飛び込んでゆくこともできます。逆に向こうからの訪問者や日本在住のコリア語話者がコンスタントにいますし、文化、経済、スポーツ、学術などさまざまな分野で実際の交流をもつ機会が多い、実用的な言語だということができます。熊本大学には常に多くの韓国からの留学生が在籍しており、熊大生が韓国に交換留学、短期留学する制度も整っています。

つぎに、日本語話者にとって習得が容易な言語だという特徴があります。日本語話者の多くが外国語に苦手意識を持っています。原因の一つは、日本語とは文化的背景や言語上の仕組みが大きく異なる外国語を典型的な外国語と捉えていることにあります。コリア語の場合、多くの学習者が急速に力をつけ流暢に喋るようになるケースが目立ち、日本語話者だからこそ有利な条件で学べたと実感しています。逆に、コリア語母語話者が日本語を流暢に話す姿も珍しくありません。共有する文化背景と言語的な類似、さらに交流の機会の多さを考えると、それは当然ともいえることなのです。

コリア語は日本語と同様、漢字文化を歴史的背景として持つ言語です。実際には漢字表記はあまり使われなくなってきましたが、語彙には무리 (無理)、유료 (有料)、시민 (市民)、산소 (酸素) など多くの漢語が含まれます。안녕 (安寧) も漢語です。さらに、体言+助詞、用言の諸語形が一つの文節をなす文法は日本語にそっくりです。その文節を、日本語と同様の語順で並べてゆきます。目上の人には敬語を用い、述語を丁寧な形式(「です、ます」)にすることも忘れてはいけません。

もちろん、外国語であるからには相違点もあります。皆さんの最初の関門は発音と文字になることでしょう。そして次に用言の語形変化などが待ち構えています。その関門をしっかり潜り抜けてみてください。しっかり学ぶ人にはそれらとて難しいばかりではありません。発音の仕組みは人間の口の普遍的な構造に根差していますし、コリア語を表記する文字(ハングル)は非常に合理的に作られています。用言の語形変化にもパターンがあります。しかし、言語表現の違いに考え方の違いが反映している場合もあります。

日本語との類似点、相違点を踏まえると、コリア語学習の一部は、振り返って日本語の仕組みを考えることにつながってしまいます。コリア語学習体験は「外国語」のイメージを確実に覆すことでしょう。コリア語を初修外国語として学んだ学生が、さらに進んで自らの専門分野の調査・研究に活用することもできます。そのような可能性まで視野に入れて、コリア語教員は皆さんの学習を支援してゆきたいと思います。コリア語を通して皆さんも言語、文化、歴史、社会について考えを深めるとともに、実際に異文化交流を体験していただきたい。